十月鹿ノ台川柳教室誌上句会　優秀句

お題「食べる」（連記）澤山よう子選

胃のかべをくずしてもっとバイキング　正清
敗戦は食料難で語りつぎ　ミノル
大食いのテレビ見る側作る側　乃り子
つまみ食い体重計とにらめっこ　幸男
友よりのまったけ今年も待ってる　えいじ
食べながら命の味を兎や角と　義雄
食わず嫌いないが自慢の居候　春代
おひとり様ハシ進まないフルコース　千楽
アレ食べたい欲があるだけまだ元気　佳代
食べるため生きてるような日も可とす　広子
おひつごと出したい様な食べっぷり　基弘
秋ナスの浅漬けうましかぶりつく　登美
ささやかな望み自分の手で食べる　英二
時移れど食卓主役なごむ声　哲子
食はまた旅の記憶を呼びもどす　郁子
シュレッダー厚手の紙を食べている　ちさと
人食った大臣席の鼻マスク　アキラ
秀　食細りストレスさえも呑み込めず　充
軸　最後の晩餐何を食すか思案中　よう子

お題「丘又は岡」山神春代選

あと幾つ丘を超えれば青い鳥　広子
足はやる丘を越えると祖母の家　哲子
鐘が鳴る緑の丘の子等は今　よう子
丘の上虹と未来の二重奏　ちさと
母に似たやさしい丘に癒される　義雄
丘ゾリの子の歓声に日が笑う　登美
なだらかな丘を女体と白日夢　義雄
異国の丘翼送るよめぐみさん　千楽
ブルドーザー岡一瞬に町となり　ミノル
人生に何かがあって登る丘　幸男
かけ登り待ってくれてる人がいる　哲子
秀　ゴールした亀が昼寝をしてる丘　よう子
軸　丁度いい散歩コースの登り坂　春代

お題「ノー」播本英二選

ノー言わず外交官はノー通す　千楽
保証人ノーと言えない兄弟間　登美
日本人イエスのようなノーを言う　アキラ
宮仕えノーと言えずにハイと言う　登美
今もってノーはなかなか言えなくて　哲子
訳もなく兎に角ノーと言っていた　よう子
ノーと言いつつさぐりを入れる腹の底　義雄
赤ちゃんが手振り足振りノーと言う　正清
かどが立つ平行四辺形のノー　乃り子
いさかいの果てに祈りのノーサイド　郁子
壊れた妻僕の顔みてアイドンノー　英二
秀　会長選び返事のノーが連鎖する　春代
軸　イエスともノーとも取れるそうどすえ　えいじ

自由吟（共選）奥村義雄選

遠くから詫びて手合わす父母の墓　広子
手すりつけ要支援でも生きてゆく　千楽
森歩く心緑に染まってく　春代
ひと晩休め悩みなど吹っ飛ぶよ　よう子
秋風に扉開いて深呼吸　郁子
みどり児のママを見つめる無垢の笑み　英二
アイスからホットに変えて衣替え　郁子
刷新と言えどしがらみ断ちきれず　基弘
孫のせて杖のかわりか乳母車　ちさと
渋柿と阿修羅のかおは似て非なり　アキラ
何もかも許したくなる空の青　登美
秀　子は親に親は子供に育てられ　義雄
軸　亡き人はとおくかなしくうつくしく

自由吟（共選）五十嵐千楽選

玄関で犬とクシャミの二重奏　英二
ギリシャ語を少し覚えたコロナ去る　幸男
学者に強くコロナに弱い総理辞め　義雄
我が夫婦解除されてもディスタンス　乃り子
装丁の巧さにひかれ駄本買う　充
気落ちした晩はひとまずコップ酒　広子
孫のせて杖のかわりか乳母車　基弘
子は親に親は子供に育てられ　登美
秋風に扉開いて深呼吸　春代
何もかも許したくなる空の青　アキラ
遠くから詫びて手合わす父母の墓　春代
秀　マイウエイ右往左往も懐かしい　アキラ
軸　ひと晩休め悩みなど吹っ飛ぶよ　千楽

十一月誌上句会　投句〆十一月十日十七時
「あこがれ（連記）」哲子　「歯痒い」義雄
「実る」俊八　「自由吟（共選）」充　広子
各二句　メール又は封書でアキラまで